

## 理事会議事録

日 時：2006年1月14日(土)11:00～17:15

場 所：国立天文台南研大会議室

出席者：祖父江、井上、黒田、花岡、杉山、北本、関井、蜂巢、和田、百瀬、田、成相、馬場、富田、浅田

欠席者：なし

その他、東條事務長が出席した。

議事に先立ち、署名人を選出した。

議 長：祖父江義明

署名人：杉山 直、花岡庸一郎

## 報 告

- 前回議事録の確認(資料1)

花岡理事より前回(2005年10月6日)の理事会議事録が報告され、原案どおり承認された。
- 次回年会およびそれ以降の年会について

富田理事より2006年春の年会について、会場の準備は順調で交通・宿泊の手配や役所との打ち合わせなどが進行中である、などの報告があった。公開講演会は「すばる、ようこうに続く日本の計画が解き明かす宇宙の謎」というタイトルで準備を進めている。百瀬理事より講演申し込みは614件、特別セッション3件を予定している、との報告があった。次いで2006年秋の年会について浅田理事より、公開講演会は放送局や教育委員会等に後援を要請中であること、北九州市コンベンション協会に補助金を申請すること、等が報告された。公開講演会の後援を新聞社にも依頼してはどうかとのコメントがあった。また、百瀬理事より2007年春・秋の年会の準備状況について報告があった。さらに100年記念の年会となる2008年春については理事長が東大に検討を依頼中であるが、会場が東大内で確保できるのか、もし会場を学外にした場合どのような問題があるか、など議論になり、引き続き検討することとなった。2008年秋については開催地候補とコンタクトして準備を開始する。
- 創立100周年記念出版の進捗状況について

北本理事より、担当出版社である日本評論社との契約の進捗について報告がされた。全17巻・初版3,000部・各巻2,000円(予定)での出版に対し2,500万円を支払う予定であり、このうち年内に1,000万円を支出するという形となる。また祖父江理事長より原稿の進捗状況の紹介があった。
- 百年史編纂の進捗状況について

北本理事より、担当出版社を恒星社に決定したこと、4,500部製作し、うち3,500部が学会用で残りは定価3,160円で販売すること、製作費と送付事務費として学会から564万円支払うこと、2008年1月出版予定であること、が報告された。また黒田副理事長より原稿の進捗について、夏に原稿締め切りの予定で執筆依頼を出しているとの報告がされた。
- その他
  - 学会100周年記念切手

花岡理事より、若松前副理事長が中心になって準備を進めてきた学会100周年の記念切手について、12月に文科省からの指示で学会からの申請書類をまとめて提出しており、文科省から郵政公社へ発行の申請が出されることになっている、との報告があった。
  - 講師派遣プロジェクト

田理事より、tennetで講師登録を宣伝している、現在64名の登録がされており派遣実績は3件ある、100名登録になったら関係機関への通知文を送って広く宣伝したい、との報告があった。講師派遣プロジェクトのウェブページがソフトの不具合でブラウザによっては見えないものがあるとの報告もされた。この件については、修正は有料らしいなどの情報はあるがより詳細を把握する必要がある、またこのウェブページはほかにも使いづらい点がある、などの指摘があった。
  - 天文教育フォーラムについて

田理事より、今年春の年会での天文教育フォーラムは「大学と地域連携による天文普及」を主題として行う、矢動丸泰氏・吉井 譲氏・柴田晋平氏を講師に予定している、との報告があった。
  - 日本宇宙フォーラムについて

北本理事より、日本宇宙フォーラムが主催している衛星設計コンテストについて、事務局から各参加学会の役割を明確するととの連絡があったがその後進展がない、との報告があった。

## 議 題

- 新入会員の承認(資料2)

正会員入会希望者に高校生相当の方が含まれていたが、正会員は天文学に相当の見識がなければならない、との認識から、理事会としては準会員での入会を勧めることとした。これに関連して、そもそも高校生もしくは未成年の方は社団法人の社員としての資格があるのか、学会としては正会員の年齢等についてどう考えるのか、等議論となり、今後検討することとなった。他の入会者の方については承認した。あわせて退会者が報告された。
- 2005年度事業報告書案(資料3)

花岡理事より事業報告書案について説明があり、質疑応答の後、若干の修正の上承認された。
- 2005年度決算報告書案(資料4)

北本理事より決算報告書案について説明があり、質疑応答の後承認された。
- 2005年度監査報告書(資料5)

花岡理事より、2006年1月10日に実施された監査の結果正当であることが認められた旨の報告書について説明があった。
- 2006年春季定期総会の議題等(資料6)

資料のとおり2005年度事業報告書案・決算報告書案・監査報告を議題とすることで承認された。なお、報告のセクションの中で特に Asian-Pacific Journal についての報告と議論を行う。総会の議事に先立って行う表彰式の中で、天体発見賞関係の受賞者は奨励賞等の表彰時は退席されるのが通例だが、表彰式の最後まで参加していただいたらどうか、との提案があった。
- Asian-Pacific Journal について

花岡理事より、経過と第1回ワーキンググループの議論の報告があり、あらためて議論を行った。天文学会として Asian-Pacific Journal に加わる場合、PASJ をやめて Asian-Pacific Journal に合流する方法と、並立させて両方の発行に学会としてかかわる方法とがある。理事会参加者の意見としては合流することに否定的な意見が多く、また一部参加も意味がなく無理ではないかとの意見で、全体として Asian-Pacific Journal への参加には消極的であった。一方今回日本が参加しないと回答するにしても Asian-Pacific Journal 自体にとっては建設的な方向へ向かうような回答にすべきである、との発言もあった。しかしながら関係者の中で日本が関係する天文学術雑誌のあるべき姿について意見のスペクトルの幅がかなり広く、どうまとめていくかについては結論が出ていない。Asian-Pacific Journal の方ではいよいよ Steering committee を組織する段階になっており、もしそこに参加するならばただオブザーバーとしてみているだけというわけにはいかない、との指摘もあった。
- その他
  - 年会規模の拡大の見通しと対策について(資料7)

百瀬理事より、年会の規模が拡大しつつあることについての今後の対策について検討した結果が紹介された。現状では正会員数が50人/年で増加しており、これに伴い年会講演数も30講演/年で増加している。このため現在の年会のスタイルでは収まらなくなり、会期を春秋両方もしくは春のみ4日間とするか、セッション数を増やしたり講演時間を圧縮したりして3日に抑えるか、が必要となる。パラレルセッションの増加は反対が多く、講演時間の短縮は賛成する人もいるものの全体には不評である。このほか口頭発表を年1回にするという意見もあったが講演を制限するのはよくないとの意見もあり、またポスターを増やせないかとの意見もあったがポスター会場の確保が非常に難しいとの発言もあった。また特別セッションが他を圧迫していないか、セレモニー的なものは夜に回せないか、などの発言もあった。当面、春のみ4日にしてみるのが現実的ではないか、2008年春は100周年でいずれにせよ4日間となる、2008年秋は3日でよいのでは、との結論となった。予稿集電子版の一括ダウンロードはできないか、との要望も出されたが、それだけの労力を割くのは難しいとの指摘もあった。
  - 天文オリンピックについて(資料8)

花岡理事より、2005年北京で開催された天文オリンピックにオブザーバーとして参加した高橋淳・洞口俊博両氏の報告をうかがう会を12月26日に行ったことについて報告がされた。オリンピックと称していても実態は他の科学オリンピックと異なり国際集会としてははなはだ未熟でローカルな行事であるとの報告であり、理事会としては、日本が天文オリンピックに参加することには消極的にならざるを得ない、という結論となった。
  - 新規事業諸案の現況(資料9)

関井理事および関連の担当理事より、新規事業案の現況の報告があった。月報のPDF化については、今後の月報のPDFファイルは出版社から無料で学会に来る、過去の月報のPDF化の作業は予算に計上してあり、進める。講師派遣は宣伝費と派遣依頼先着5件程度の旅費・謝礼30万円程度を学会で負担する、という予算でキャンペーンを行いたい。月報100巻記念は具体的に検討中で、今後予算を立てる。百周年事業はそれぞれ検討中・進行中である。会費値下げは引き続き検討中。PASJは月刊化を視野に入れていっつか見積もりを取るなど費用の検討を行っている。
  - 100周年記念出版事業について

北本理事より、100周年記念出版のための特別会計は2006年度は交通費のみ支出の予算であったが、出版社から年内に出版費の一部(1,000万円)を支払うよう依頼があったのでそのようにしたい旨の提案があり、これを承認した。
  - 男女共同参画学協会連絡会について

黒田副理事長より活動の報告があり、また現在委員である黒田副理事長・富田理事・林 左絵子氏に加え、関東の委員がいないので望月優子氏(理研)を新たに加えたいとの提案があったので、理事会として承認した。
  - 会員名簿発行について(資料10)

花岡理事より、今年予定している会員名簿発行に関連して現在の状況や他学会の動向を資料として学会事務でとりまとめたものの紹介があった。社団法人は本来名簿を公表する義務があるが、昨今の状況に鑑み広く公開することについては避けてもよいことになってきている。現在会員に配布している名簿は冊子のみであり、また名簿に記載する項目は各会員が選べるようになっている。今後の名簿の発行について、できるだけ個人情報を出すべきでないとの立場から名簿の発行を続ける必要はない、との意見も出されたが、会である以上誰が会員なのか相互にわからないのはおかしい、名簿に掲載される項目を各会員が選べるのだからこれでよい、しかし誰も情報を載せないのなら意味がない、名簿を出すかわりに会員相互の連絡を学会事務が仲介するようなことになる労力が増える、等の意見が出された。結局多数決で賛否を問うたところ、1名を除く全員が継続に賛成であったため、これまでどおり名簿の発行を続けることとなった。
  - 評議員選挙施行細則付則の削除(資料11)

花岡理事より、評議員定数の改正(30名→20名)に伴って、改選時の混乱を避けるためにつけられていた付則について、昨年の評議員選挙をもってその役割を終えたので削除することを秋季総会の議題としたいとの提案があり、これを承認した。
  - 次回以降の理事会日程

次回は春季年会中、3月27日の昼休みに開催し、次回回は6月24日(土)11:00より国立天文台(三鷹)で開催することとなった。

2006年1月28日

議 長 祖父江義明

署名人 杉山 直

署名人 花岡庸一郎